

平成18年度 学校自己評価表 A：達成 B：おおむね良い C：不十分 学校名 松本筑摩高等学校全日制 学校番号 81

全日制教育目標	今年度の重点目標	中間評価	評価
生徒一人一人の能力の開発と学力の向上を図る。自らの行動に責任を持ち、他人を尊重し、社会連帯を重んずる態度を涵養する。健康と体力の向上に努め、たくましい精神力を培う。	全日制の教職員としてのモチベーションをさまざまな指導場面において、持ち続けること	進路指導・生徒指導・生徒会活動など、さまざまな場面においてモチベーションを落とさず生徒達に働きかけてきている。	B
	松本大学・未来学舎との連携授業、県内の大学・短大の講師を招いての模擬授業など進学意識を高める企画を実施	松本大学・未来学舎との連携授業は、計画通りに実施できた。	B
	ボランティア活動の実践など地域の信頼を得るような学校作りを、生徒会も巻き込みながら推し進めること	夏期休業中の「ずく出せ修行」以外のボランティア活動には、約10名の生徒達が参加してくれた。少しずつ輪が広がってきている。	B
	環境問題に関心を抱かせるような運動を試みる	「環境の日」を今年度も2回実施。関心を抱かせるまでには、至っていない。	C

対象	評価項目	評価の観点	中間評価(コメント)	評価
多部制・単位制	教育課程(選択科目)の変更と決定	早期に選択科目の確定ができたか	新3年は進行中。新2年は開講講座を決定。ほぼ予定通りに進んでいる。	A
	多部制・単位制に繋がる企画の考案	一つでも繋がる企画を考案できたか	「高大連携」「高専連携」「キャリアサポート」「定時カウンセリング」などいくつかの企画を考案している。	B
学習指導	全学年実施の「総合学習」の内容充実化	昨年より充実した総合学習となったか	2・3年の総合学習は、今年度「小論文指導」に重点を置くことによって、ある程度の成果が出ている。	B
	年2回実施する授業評価	全職員が授業評価に前向きに取り組めたか	授業に対する生徒達(前向きに取り組んでいる)の要望を該当の先生にある程度伝えることができた。	B
生徒指導	多岐にわたる資格・検定試験の実施	受験者数・合格者数を増やせたか	漢検 受験者微増(準2級3名) 英検 準2級1名 ワープロ検定 合格者微増	B
	中途退学者を少しでも減らすこと	昨年より中退率を下げるのができたか	中退者数(9月末現在) 昨年度 4名 今年度 11名	C
	授業に集中できない生徒への指導	段階をおった指導ができたか	これまで授業態度で指導を要する事例は出ていない。	A
	朝の声かけ指導	毎朝実施できたか	毎朝実施している。	A
	自転車ステッカーの徹底	乗り方・駐輪マナーを守らせられたか	春のステッカー指導でおおむね実施できた。第2回目の指導を今月に予定。自転車の2人乗りが減らない。	B
	登校反省・事後指導の充実	反省補充システムがうまく機能したか	初めてのシステムなので問題点がある。なかなか補充が完成せず、係の負担が大きい。	B
	生徒相談室の利用	面談の機会を増やし、予防指導ができたか	反省指導室としては充実しているが、その他の利用はなかなかできない。	B
進路指導	スクールカウンセラーの活用	生徒相談の一環として効果があったか	おおむね効果はあったが、コーディネートの教員が必要である。	B
	県内の大学・短大講師による模擬授業	進学意識と共に学ぶ目的意識が高まったか	3年生の進路決定、2年生の科目選択決定の時期をみて、学年卒にとらわれずに進学講座として実施する予定。	C
	小論文・作文の力をつける	自分の考えや意見をまとめ、表現力は身についたか	総合学習の時間を活用し学習を進めることができた。生徒の文章力も向上している。	B
	進路シラバスの作成	進路学習到達度を自己評価し目標を定められたか	3年生について到達度調査を実施した。今後1・2年生でも実施し、各自の進路目標をより明確にさせていきたい。	B
生徒会	フリーター・ニートの減少	0%にする	個別面談を繰り返し実施し、目標に近づく努力をしている。	B
	委員会活動の活発化	当初の計画通りの活動が、日々できたか	おおむね計画通りに活動できた。	B
	「ちくまっ子」(生徒会広報活動)の発	生徒会への関心を広めることができたか	文化祭前の広報活動は活発にできた。	B
	文化祭でのクラス展示の内容	どのくらいの創意工夫がなされたか	創意工夫の見られる展示は少なかった。準備に費やされる時間も少なかったように思う。	C
1学年	部活動の活発化	クラブ加入率は、高まったか	加入率は低いが、加入している生徒はよく頑張っている。	C
	基本的生活習慣の確立	欠席・遅刻・早退に常に目を配れたか	中学からの習慣が抜けないのか、遅刻・欠席・中抜けする生徒が非常に多い。出欠表でチェックし、1/7で保護者を呼び注意を徹底させて	B
	基本的学習習慣の確立	意義ある禁煙教育・性教育の講話が実施できたか	禁煙教育・性教育とも最良の講師を迎え実施することができた。校内でのたばこに関する指導案件は今のところ出ていない。	A
	保護者・同窓会・地域の方々との連携	家庭学習が定着した	高校生としての学習習慣を確立するため毎日1時間以上の家庭学習を呼びかけているが、定着は難しい。	C
2学年	総合学習・LHRなどで講師として招くことができたか	まだ未実施。今後、家庭科や社会科・国語科などの授業でも保護者の参加を計画している。	B	
	目標を明確化させるための進路指導	面談・朝学習・補習を通して未定者0に近づいたか	4,9月の個人面談、6,10月の模擬試験、7月の進路講習などを通して指導中であるが、退学者も多く達成不十分である。	C
3学年	沖縄修学旅行への取り組み	きめ細かい事前指導・現地での目的を達成できたか	沖縄の戦争・歴史・文化・自然などについて、総合学習・情報・社会・文化祭などを通して事前学習中である。	B
	生徒会活動・部活動への勧誘	活動している生徒の割合はどのくらいか	前期生徒会役員20名、後期生徒会役員希望者41名、部活動53名。	B
	すべての生徒の気持ちを汲んだ進路指導	面接指導によって生徒の進路意識を高められたか	全員対象の進路講座を8回、それ以外の該当者のみの講座8回、総合の時間を使つての担任による面接指導や進路指導係による面接指導の	A
環境美化	進学・就職講座の開設	進路指導係と担任団との連携で指導効果を高められたか	確保できている。就職内定者13名(一次段階での不採用者0である。)	A
	全員の卒業を目指しての生徒指導	中退者を最小限にとどめることができたか	10月までの退学者1名、休学者3名。最終学年まで来たのに、働きたいなど他に目を向けてしまう生徒が出てしまった。	B
	年2回実施の「環境の日」	意義ある清掃美化の日となったか	生徒の出席もよく、意義ある日となった。ただ、作業範囲が広すぎたため達成感が少なかった。他課程とも分担しあうことを検討していき	B
	美化委員が率先して行う校内清掃	清掃の意義とマニュアルを全校生徒に伝えられたか	年度当初に実行できなかった。	C
校内研修	第2回清掃クラスマッチ	美化委員中心に意義あるクラスマッチとなったか	未実施。	C
	松本市ポイ捨て条例の啓蒙と意義	ポイ捨て0へ近づけることができたか	文化祭中にポスター等を貼り、啓蒙の第1段階までは進めたと思う。	B
	「もったいない運動」のスタート	物を生かして使うという習慣が育ったか	未達成。	C
組織運営	校内職員研修の実施	日々の教育活動に役立つ研修を実施できたか	精神衛生講話を1回実施。授業工夫に関する校内研修も企画する必要があると思われる。	C
	松本大学との連携授業の公開	教材研究の工夫に対する意欲は高まったか	鈴木教授による「VBAレッスン」4回と矢崎助教授による「高校生のための心理学」4回を実施することができた。	B
P.T.Aとの連携	各主任と学年主任との連携	有効な連携ができたか	教務・進路・生徒指導・生徒会という4つのラインにおいて、ある程度の連携はとれている。	B
	来年度に向けて校務分掌の見直し	役割分担の見直しと仕事内容の効率化が図れたか	これから校務分掌委員会を開催して検討していく予定である。	C
広報宣伝	地区P.T.Aの開催	充実した会合となったか	10月下旬から11月にかけて、6地区で実施する予定である。	B
	環境の日・文化祭・強歩大会への協力	三者の連携がスムーズにおこなわれたか	P.T.A会長を中心にそれぞれの行事で協力していただいた。	B
広報宣伝	夏の奉仕作業と芸術講座	有意義な活動・講座となったか	全日制棟の階段ペンキ塗りと美術科山田先生による芸術講座(木彫り)を開催することができた。	B
	ホームページの充実	中学生に多部制・単位制を理解してもらえるようなホームページを作成することができたか	昼間定時制でホームページを作成している。	